



2026年 4月16日 第2649回例会
4月第3例会

RI会長メッセージ: UNITE FOR GOOD
「よいことのために手を取りあおう」

本年度会長テーマ
「ロータリーの友情を育もう」

「環境月間」

◆ 会長時間 ◆

小橋会長



4月は環境月間です。

ロータリーは天然資源の保全と保護を促進し、環境の持続可能性を高め、人と環境の調和を促す活動を支援し、補助金やその他のリソースを提

供し、気候変動と環境破壊の原因、およびその影響の削減に取り組むとしています。中でも、マイクロプラスチックによる生態系や人体への影響は憂慮すべき課題です。海洋に流出したプラスチックは、小さな破片となって魚の体内に入り、その魚を食べた人間の体内から検出されています。

環境問題の根本には人口や教育などの社会課題も深く関わっています。特に女子教育の普及は、将来の人口抑制や地域の自立に繋がり、環境保全にも貢献する重要な鍵となります。また、食品廃棄も環境負荷の一因であり、余剰食品を活用する取り組みも広がりを見せています。世界で生産される果物、野菜、肉、その他の食べ物の3分の1は、食卓に上がることがありません。代わりに、畑で未収穫のまま腐ったり、貯蔵庫で台無しになったり、冷蔵庫の奥で忘れられたりしてゴミとなります。

食べられないほどの食糧を生産すれば、エネルギー、土地、肥料などの資源の浪費となります。ゴミ埋め立て地では、食品廃棄物から温室効果がガ

スであるメタンガスが発生します。食べられなかった食料が栽培されてから廃棄されるまでに大気中に放出される二酸化炭素の量は、毎年440万ギガトン（ギガトン=10億トン）に相当すると、言われています。

私たちロータリークラブとしても、この「環境月間」にあたり、今一度自分たちにできることを見つめ直し、身近なところから実践していくことが求められています。家庭でも職場でも、小さな取り組みの積み重ねが大きな変化につながると思います。

● 委員会報告

✳ プログラム・出席委員会



出席報告 木本君

本日（4月16日・木曜日）

会員数	91名	出席者	70名
欠席者	21名	ご来客	2名
ご来賓	0名	ゲスト	1名
		計	73名

4週前の例会2026年3月19日・木曜日

出席率 100%





ジェームス・デイビッドソン：
「ロータリーのマルコ・ポーロ」

経験豊かな冒険家ジェームス・ウィーラー・デイビッドソンは、初期のロータリーが米国外へ拡大していくのに欠かせない存在でした。大陸をまたいだ行脚によって、ギリシャからタイに至る12カ国で23クラブの創立を実現させました。

若かりし頃、北極点到達で知られる探検家ロバート・ピアリーの第二次グリーンランド探検に参加したこともあるデイビッドソンが初めてロータリーの任務で旅をしたのは、1921年のオーストラリアとニュージーランドでした。2回目は長旅となり、1928年から1931年にかけてアジア極東地域を巡りました。ロータリー創設者のポール・ハリスが彼を「ロータリーのマルコ・ポーロ」と称したのもうなずけます。

トルコ人、エジプト人、アラブ人、ペルシャ人、インド系イスラム教徒、ヒンズー教徒、ビルマ人、ジャワ人、マレー人、シャム人、中国人、日本人、そして東洋に住むヨーロッパ人と、全部で2,200回もの訪問をしましたが、彼らとの交流から学んだことは、どの国にも、私たちやほかの国の人にはない美徳がある、ということです。善良で望ましいすべての美点を独占している国も人種もない、ということです。

8月下旬にモンリオールからヨーロッパを經由してアジアへ向かい、妻リリアンと十代の娘マージョリーを伴った旅は2年半に及びました。1931年3月12日、デイビッドソンは妻子とともに横浜を出港し、21日にカナダのバンクーバーに到着して旅を終えました。

およそ100年前の話しになります。



春の家族会のご案内

今年度の家族会は広島市中央公園の「HiroPa (ヒロパ)」内にある「THE BBQ GARDEN in HIROSHIMA」にて、目の前の美しい河川で自然を感じながらのバーベキューを計画いたしました。

日時／2026年6月7日(日) ※11:00～13:30
場所／THE BBQ GARDEN in HIROSHIMA

広島市中区基町15番地 広島市中央公園内
会費／会員9,000円、家族4,500円
(小学生以下 無料)

● 会員記念日

📅 ご入会記念月おめでとうございます。

(5名)

松岡(幹)君(S57年) 香川(基)君(H8年)
中村(光)君(R2年) 安部君(R5年)
櫻段君(R7年)

🌸 創業月おめでとうございます。

(13名)

井原君 (医)井原クリニック
川西君 ㈱トータテホールディングス
福田君 (医・社)メリィホスピタル
大植君 大植法律事務所 南條君 南条工業㈱
山縣君 ㈱ニシヒロ
隅田君 ㈱KRC 広島西支社
瀬崎君 広島電鉄㈱ 田原君 ㈱タハラ
田島君 広島アルミニウム工業㈱
安原君 ひろしんビジネスサービス㈱
櫻段君 さくら歯科医院
小島君 ㈱栗本ホールディングス

● スマイルボックス SAA 大地君



👤 新沢君（自主申告・大枚）

㈱NIIZAWAは今週末4月18日に廿日市市大野に新たに自動車整備工場のオープンと本部機能を移管します。約2,000坪の敷地で県内でも最大級の工場となり、今後は商用車のトラックなどのリース販売やレンタカーに注力し、バナメイエビの養殖にもチャレンジします。このたびも広島銀行さんには大変お世話になりありがとうございました。

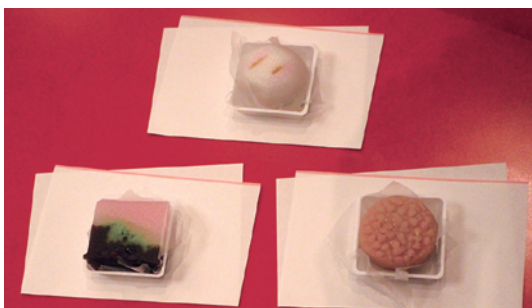
■ 卓 話



和菓子あれこれ

加藤 博基君

今日は、皆様にお菓子を召し上がっていただきながら、和菓子のこと、そして弊社のことを少しお話しさせていただきます。



まず、お手元のお菓子についてご紹介します。白い上用饅頭は「うららか」、緑色のものは「鼓草」、桜色の丸いものは「桜づくし」、赤い四角いものは新入生のランドセルを表した「新入生」、そして山の上に緑と桜を配したものが「春の山」です。春らしい情景や季節感を、それぞれのお菓子の意匠に込めております。和菓子は味わうだけで

なく、目で見て、名前を聞いて、季節を感じていただくものでもあります。そのため、お茶席では菓子のいただき方や扱い方にも意味があり、そうした所作も含めて和菓子の文化の一つであると感じております。

弊社・御菓子所高木は、大正8年3月の創業で、一昨年105年を迎えました。現在は、福屋、そごう、ゆめタウンなどを中心に11店舗を展開しております。本社は広島市にございます。もともとは菓子店ではなく甘味処として始まり、私の祖父が、あんを炊く技術をもとに、戦後、これからの日本では上質な和菓子が求められるだろうと考え、京都や東京で学びながら菓子屋を始めたと聞いております。そうした歩みが、今日の高木の礎となっております。



現在の本店には、2階にロビーや茶室を設けており、和菓子教室なども開催しております。お菓子を単に買っていただくだけでなく、お客様ご自身に楽しみ、体験していただける場も大切にしたいという思いから続けております。特にお子様方には、和菓子づくりが細工遊びの延長のような感覚で楽しんでいただけるようで、私どもにとっても嬉しい取り組みとなっております。

和菓子業界は、実際には非常に小規模な事業者が多く、家族経営が中心です。4人以下で営んでおられるお店が半数を占めるという、大変厳しい業界でもあります。その一方で、和菓子には長い歴史があります。もともとは中国から伝わった唐菓子や点心、さらにポルトガルから伝わった南蛮菓子などを受け入れながら、日本独自の文化として発展してきました。羊羹や上用饅頭、そしてカステラなども、その流れの中で日本独自の菓子として育っていったものです。外から伝わったものを、そのままではなく、日本人の感性に合わせて磨き上げてきたところに、和菓子文化の面白さがあるように思います。

広島のお菓子について申しますと、かつては柿羊羹が名物としてよく知られておりました。広島には以前、40軒以上が柿羊羹を作っていた時代もあったと聞いております。今では広島名物といえどもみじ饅頭の印象が強いかもしれませんが、その前にはそうした歴史がございました。もみじ饅頭についても、宮島で考案され、その後広く知られるようになっていった経緯があります。

和菓子の役割の一つは、春夏秋冬を映し出すことです。桜、新緑、紅葉、雪景色といった季節の移ろいを、小さな菓子の中に表現することができます。また、人生の節目にも和菓子は使われてきました。お祝い事や仏事、季節の行事など、人の暮らしに寄り添ってきたのが和菓子であると思います。ただ、近年はそうした行事との結びつきがやや薄れつつあるようにも感じております。



和菓子は、よく「五感の芸術」と申します。目で見て美しく、口にして味わい、手触りを感じ、さらに名前から情景を思い浮かべる。香りについては、茶席ではむしろ控えめであることが大切ですが、その分、形や色、名付けに込められた意味が大きな役割を果たします。たとえば「うららか」と聞けば、春の穏やかな日差しを思い浮かべますし、「夢見草」と聞けば桜を連想される方もおられるでしょう。そのように、和菓子は小さいながらも豊かな世界を持っています。

また、和菓子の原料の多くは、小豆、粉、砂糖です。中でも小豆は味を決める大切な材料で、日本で使われる小豆の大半は北海道産です。加えて、近年は広島県内でも三次や世羅で丹波大納言小豆

の栽培に取り組んでいただいております、ここ数年でようやく使える品質のものが育ってきました。地元の素材が少しずつ実を結び始めていることは、大変ありがたく感じております。

さらに、お茶席での作法についても少し触れます。遅刻をしないこと、時計や指輪を外してお茶碗を傷つけないこと、お茶碗を必要以上に高く持ち上げないことなど、どれも相手や道具を大切にしている気持ちの表れだと思っております。難しく考える必要はありませんが、まずは周囲の方のされることを見ながら、丁寧にするまうことが大切ではないかと思えます。

和菓子は、季節を映し、暮らしに寄り添い、目にも心にも楽しみを与えてくれるものです。ぜひ今後、お菓子を召し上がる際には、味だけでなく、その形や色、名前にも目を向けていただければ幸いです。

● **ポール・ハリス語録 一 平和**

無知は平和の脅威です。相手を理解できれば、それだけ、おせっかいや批判、横柄な態度は減るものです。人も国も、自分のためにも世界のためにも知識や理解を深めなければなりません。
(This Rotarian Age)

私は、ためらうことなく断言できます。世界平和は達成できる、と。さらに、友情、寛容、人の役に立つというロータリーの堅固な土台の上に平和を築くなら、恒久的なものにすることができます。
(キューバ、ハバナ1940年RI国際大会でのメッセージ)

分裂する力があまりにも強すぎるこの世界の中で、ロータリーは統合と融和を目指す力です。ロータリーは平和な世界の一つの縮図なのであり、諸国民が見習うべき一つのモデルになっているのです。
(My Road to Rotary)

● **卓話予告**

日時	テ ー マ	
5/14(木)	「石山合戦」	石山 成之 君

広島西RC
検索

<p>例会日・木曜日 12:30~13:30 例会場・ANAクラウンプラザホテル広島 会 長 小橋 敏幸 幹 事 山縣 浩一</p>	<p>事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78 リーガロイヤルホテル広島13F TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870 E-mail : hwrc@godorc.gr.jp 作 成・会報雑誌・広報委員会</p>
---	--